

病害虫発生予察注意報第 3 号

佐賀県

作物名：ブドウ
病害虫名：べと病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1) 7 月上旬の調査では、発生葉率は 7.0% であり（(参考) 平年値：6 月下旬 0.2%、7 月下旬 9.3%）、多発生圃場も認められる（表 1）。
- (2) 雨よけ圃場においても一部で発生が認められている。
- (3) 福岡管区気象台の九州北部地方における 1 ヶ月予報（7 月 4 日～8 月 3 日）によれば、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みであり、本病の発生に好適な条件となっていることから、今後多発する恐れがある。

表 1 ブドウべと病の発生状況（平成 27 年 7 月 6～8 日調査）

地点名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	平均
発生葉率(%)	0	0	3	0	0	0	32	0	1	0	6	0	27	0	36	7.0

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨によって発病が進展するので、表 2 を参考に雨の合間に薬剤防除を実施する。
- (2) 罹病葉（写真 1）は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- (3) 袋かけ等の作業が遅れている園では、速やかに袋かけを行い、袋かけ後、早急に薬剤防除を実施する。
- (4) ボルドー液、I C ボルドー 48Q、I C ボルドー 66D で防除を行う場合、固着剤アビオン E 1,000 倍を加用すると防除効果が向上する。
- (5) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。
- (6) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフロアブル等）には、耐性菌が発生しているため、本病の防除には使用しない。
- (7) その他、防除の詳細については「[平成 27 年度 施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき <水稲・大豆・果樹・茶> \(P344～346\)](#)」を参照する。

表2 ブドウべと病の主要な防除薬剤^{注1)}

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	備考
エトフィンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	
レーバスフロアブル	2,000倍	7日前まで	3回以内	
ランマンフロアブル	2,000倍	14日前まで	3回以内	
ライメイフロアブル	4,000倍	14日前まで	3回以内	
ベトファイター顆粒水和剤	3,000倍	30日前まで	3回以内	
カンパネルラ水和剤	1,000倍	45日前まで	2回以内	
ベネセット水和剤	1,000倍	45日前まで	2回以内	
ムッシュボルドーDF	500倍	—	—	
ボルドー液	※ ^{注2)}	—	—	
I Cボルドー48Q	50倍	—	—	
I Cボルドー66D	50倍	—	—	

注1) 表中の薬登録情報は平成27年7月8日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。

注2) ボルドー液については、商品によって希釈倍数が異なるため、薬剤の使用にあたっては登録情報を確認する。



写真1 ブドウの葉に発生したべと病